

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

目的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。併せて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

成果 1. 調査研究成果の公開と、研究情報の国際発信

- ・平成30年度に引き続き、当研究所刊行の論文等を国立情報学研究所が運営する学術機関リポジトリデータベース (IRDB) を通じて公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』の3タイトル115件を令和元年度に新たに追加し、合計13タイトル3,631件の論文・刊行物のフルテキストを搭載・公開した。
- ・ゲッティ研究所のゲッティ・リサーチポータルに当研究所の刊行物及び明治・大正・昭和初期のカタログ(全文データ)を提供し、搭載件数は1,392件となった。今後も提供データを増やしていくための調整・協議と作業を進めた。
- ・展覧会カタログ所載記事・論文のデータを「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースであるOCLCのセントラル・インデックスに情報を提供し、令和元年度は2016(平成28)年の文献情報2,948件を追加した。

2. 国内外の関連機関との協働研究・協議

- ・京都府所蔵資料のデジタル化作業を継続的に進め、京都府担当者と公開活用についての協議を行った。
- ・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議を行い、日本美術に関する講演を行った。
- ・資料の特性により様々な形態・プラットフォームでオープンアクセス資料を増やしてインターネット上で広く国内外に提供するとともに、成果発表を行った。



セインズベリー日本藝術研究所での講演



パブリックドメイン資料についてのシンポジウムにおける発表

発表 ・江村知子：「日本絵画にみる四季の表現」セインズベリー日本藝術研究所 19.11.21

- ・橘川英規、江村知子、小山田智寛：「東京文化財研究所のパブリックドメイン資料：文化財を知り、守り伝えるための資料蓄積と研究支援」、シンポジウム「デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件をめぐって」 20.1.17

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、早川典子(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、西和彦(文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣(客員研究員)